

NO,10

イヌマキ

(マキ科)

出雲地方では「こうやまき」と呼ばれているおなじみの木で、庭木や生け垣などとしてよく植えられています。高さ20mほどになる常緑の針葉植物ですが、葉は平べったく針葉樹の葉には見えません。なお、ほんとうのコウヤマキは、葉がもっと細くて長い別の植物ですので、間違えないようにしましょう。分布は、本州の関東地方以西の太平洋側から沖縄にかけてと、台湾です。

イヌマキは、雄の木と雌の木が分かれており（雌雄異種）、雌の木には特徴のある実をつけます。枝の葉のつけねに、楕円形と円形の実を団子を串刺しにしたような形につけ、9～10月ごろ枝側の楕円形の部分が赤く色づきます。先端についている円形の緑色の実がほんとうの果実で、赤く熟すのは花托（かたく）と呼ばれる部分で果実ではありません。よく熟し赤紫色になった花托は、少し松や二臭いものの甘く、生で食べることができます。

刈り込みに強いことから、庭木としてよく植えられ、マツのような形にきれいに刈り込まれたものもときどき見かけます。また、屋敷林や畑の防風垣、公園の修景木などにも使われます。材は水やシロアリに強く、風呂桶や土台などに利用されます。

なお、よく似たラカンマキはイヌマキの変種で、イヌマキより葉が細くて短いのが特徴です。イヌマキと同様に、庭木や生け垣などに利用されます。



▲ イヌマキの実



▲ イヌマキの実：熟すと赤紫色になり食べるとおいしい



▲ イヌマキの葉

▲ ラカンマキの葉



▲ コウヤマキの葉：イヌマキより細長い